

導入事例 ▶▶ 津田塾大学様

HDMIに伝送経路も含めたデジタル化を中核に 視聴覚設備を全面リニューアル

津田塾大学様は1990年に教育用視聴覚環境を整え授業に用いてきましたが、デジタル化による基盤設備の全面リニューアルが必要となりました。当社はHDMIを用い、信頼性が高く、誰にでも使いやすいシステムをご提案し、設計施工を行いました。

津田塾大学様は、小平キャンパス5号館に1990年の竣工時より視聴覚環境を備え、様々なメディアを用いた教育を推進してきました。

様々な規格が混在することで 機器間の整合性が困難に

動画メディアがVHSから、DVD、Blu-rayと変遷するなど時代によるメディア規格の変化にあわせ、随時機器等の更新を行いました。しかしそれによって、旧来のアナログ的設備と新規に導入したデジタル機器が混在することになり、総合的な整合性をとることが難しくなっていました。そこで2011年7月の地上波放送のデジタル移行を機に、ハイビジョン

を教育に活用すべく、基盤設備の更新を計画したのです。

基盤設備についての検討が始まったのは2009年のことです。それからおよそ2年をかけて計画を詰めていき、2012年の春休み中に整備工事を行いました。

HDMIの導入により 伝送経路もデジタル化

当社は津田塾大学様からの要請にお応えし、基盤設備の更新を実施いたしました。

今回の更新にあたっては、映像および音声をデジタル信号で伝送する通信インターフェース・HDMI (High-Definition Multimedia Interface)

を中核に置いています。5号館内の伝送媒体としては、光ケーブルによるネットワークを構築しました。基盤設備の中核となる視聴覚センター教材制作室から館内の各教室へデジタル信号で映像音声を配信できるようにし、さらに既存のアナログ信号もバックアップできるように、LANケーブルもあわせて敷設しました。

また高解像度プロジェクターの設置による鮮明な画像表示に加え、タッチパネルで簡単に教授メディアを切り替えられるよう操作性を向上させました。

以上の更新により授業運営の効率化、ICTを活用した教育のさらなる充実が図られています。

HDMI規格を導入して将来的にも拡張性のある視聴覚環境を整備したかった



設備を全面リニューアルした視聴覚センター

必須ポイント

様々なメディア規格による設備の不整合性の解消

映像および音声をデジタル信号で伝送するHDMIの導入

授業の効率化が行える設備だけでなくシンプルな操作性

成約の決め手

コストや信頼性、技術面だけでなく教育用視聴覚システムの特徴を熟知。日頃からの営業姿勢や専門性を活かした情報提供にも好感。

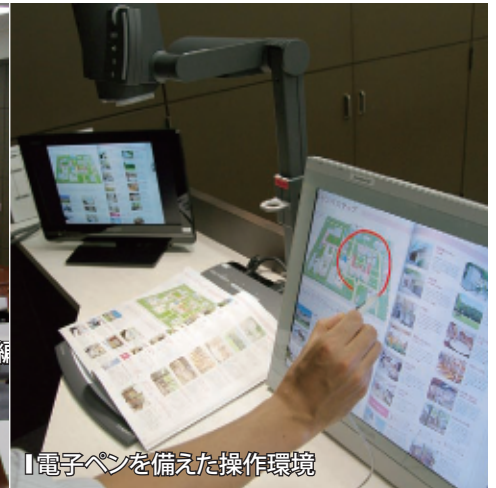
- 名称：津田塾大学 ● 所在地：東京都小平市津田町2-1-1 ● 学長：國枝マリ ● 学生数：2,851人
- 学部・学科：学芸学部内に英文、国際関係、数学、情報科学の4学科
- URL：<http://www.tsuda.ac.jp/>



津田塾大学小平キャンパスの本館



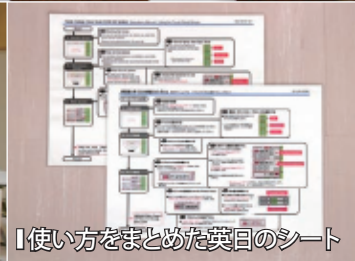
【HDMIを用いた教室では今までよりも鮮明な映像が視聴可能】



【電子ペンを備えた操作環境】



【小規模教室でも対応可能なシステム】



【使い方をまとめた英目のシート】



【視聴覚センターの映像配信システム】

ユーザーの声：

**将来性のあるシステムが決め手
 シンプルな操作にも好感**

学生たちも“デジタル・ネイティブ”と呼ばれる世代となり、どこかで基盤そのものをデジタルに切り替える決断をしなければと、かねてから考えていました。様々な規格がある中でシステム全体を考えた場合、ケーブルはどうするのか、増幅装置やNodeは何を使うべきかなど、現場にいる私たちには判断に困ることが多く、結局は地上波放送のデジタル化ぎりぎりの時期まで悩みました。



津田塾大学
 視聴覚センター
 石井 明様

決め手となったのは、インテル社がアナログ規格であるVGAを止めてデジタル規格のHDMIをサポートするとアナウンスしたことです。それならHDMIを基盤にすることで、これから先にも対応したシステムを導入できそうだと判断しました。

今回の基盤設備では、コストと信頼性の兼ね合いを考えつつ、技術面はもちろん教育用視聴覚システムに求められる特性を理解しているところに発注したいと考えました。電子システムさんには非常にタイトな時間の中で、これから先の拡張性やサポートに配慮した設計施工を行っていただいたと感じています。私たちがやりたいと思うことが普通にできますし、シンプルなインターフェースで操作するので、以前のシステムよりも確実に使いやすくなっています。

電子システムさんは、最新技術の動向を把握していて、いつも私たちへ情報提供してくれます。サジェッションも的確で誠実さを感じます。

実際に使ってみて分かった課題がいくつか出てきていますので、今後も課題解決のための踏み込んだ提案をして欲しいと思います。

お問い合わせ

ICT innovation by
Densys
 電子システム株式会社
<http://densys.jp>

首都圏支社
 東京都武蔵野市中町1-4-4
 スクウェア三鷹3F
 ☎0422-60-5155

東海支社
 愛知県名古屋市中区御器所3-2-5
 ☎052-872-0505